

令和5年4月6日（木）11時 解禁

【資料提供先】
高松経済記者クラブ

【問い合わせ先】
一般社団法人公共建築協会
四国地区事務局
事務局長 中島 秀明
電話：087-873-2266
E-mail：shikoku@pba.or.jp

第18回公共建築賞「公共建築賞・優秀賞」「地域特別賞」の 決定について（四国地区）

一般社団法人公共建築協会が、国土交通省、全国知事会、全国市長会及び全国町村会の後援を得て実施している第18回公共建築賞の「公共建築賞・優秀賞」「地域特別賞」が決まりましたのでお知らせいたします。

四国地区での受賞建築物は、次の4点です。

「公共建築賞・優秀賞」

(50音順)

建築物名	所在地
高松市屋島競技場	香川県高松市屋島中町 374-1
中土佐町第1号津波避難タワー	高知県高岡郡中土佐町久礼 6781-1
梶原町立図書館（雲の上の図書館） 梶原町複合福祉施設（YURURI ゆすはら）	高知県高岡郡梶原町梶原 1212-2

「地域特別賞」

建築物名	所在地
豊永郷民俗資料館	高知県長岡郡大豊町栗生 158

《公共建築賞・優秀賞 受賞作品》

高松市屋島競技場（生活施設部門）



外観



内観

《施設概要》

- 所在地：香川県高松市屋島中町 374-1
- 建物用途：競技場
- 敷地面積：52,545 m²
- 構造形式：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 4 階
- 延べ面積：16,207 m²
- 竣工年月：平成 29 年 3 月
- 事業者：高松市
- 設計者：株式会社 佐藤総合計画
- 施工者：大成建設・高岸工務店 特定建設工事共同企業体

高松市屋島競技場（以下、屋島競技場という）の敷地は、昭和 28 年に開催された第 8 回国民体育大会のメイン会場として整備された旧屋島陸上競技場ですが、構造耐力の低下、狭隘化などの解決のために、敷地全体を再整備することが求められました。

しかし、その再整備は、日本陸上連盟の第 2 種公認取得、サッカーやラグビーなどの幅広いスポーツが快適に行える場、交通動線や駐車台数の確保、等々、多大な要求があり、限られた狭小な敷地へ入れ込むことは、そう容易いことではありません。しかし、このような多大な要求に対し、設計者は巧みに処理し、コンパクト、かつ、ダイナミックな空間として仕上げています。

競技場は、大人数が集まる施設であるため、交通動線や駐車台数の確保は、大きな課題でした。そこで競技場周囲にデッキ上のコンコース空間（2 階）を設けることで、1 階に約 370 台の駐車場スペースを取り、確実な歩車分離を行っています。また、2 階のコンコース空間は、市民へ開放され、ともすれば大会時以外は閉鎖空間として運用されることが多い競技場を開かれたものになっています。事実、調査時にコンコースを散歩やジョギングしていたり、スタンドを散歩している人が見られ、さらに、コンコース空間（屋根あり歩道、芝生広場等）では、競技者や観戦者の休憩空間等の多様な利用がなされ、コンコースや観客席を市民開放した設計となっています。

また、屋島競技場は、第 2 種公認競技場としてコンパクトな造りとなっているものの、一周 200m の補助競技場と天候に左右されず利用が可能な公認の室内競技場も併設しており、多機能な施設であることから、陸上競技の他、サッカーの試合やスポーツ合宿、地域のイベントなど、プロ・アマ問わず、小学生から大学生・社会人に至るまで大勢の競技者に利用され、使用した関係者からも高い評価を得ています。以上により、屋島競技場は、地域に開かれた施設として定着した様子が見られ、競技場を街にひらくという目標を持った新しい競技場のあり方を提案しています。

（四国地区審査委員長 大谷英二）

《公共建築賞・優秀賞 受賞作品》

中土佐町第1号津波避難タワー（行政施設部門）



全景



内観

《施設概要》

- 所在地：高知県高岡郡中土佐町久礼 6781-1
- 建物用途：防災施設
- 敷地面積：662 m²
- 構造形式：鉄骨造、地上3階（3階床高さ TP+20m）
- 延べ面積：701 m²
- 竣工年月：平成26年6月
- 事業者：中土佐町
- 設計者：株式会社 若竹まちづくり研究所
- 施工者：新進建設株式会社

津波避難タワーは、近くに高台のない漁村等や海岸に近い市街地において、津波に対し早急に避難するための大変に重要な施設です。

しかし、その多くは、鉄骨丸裸の無粋な工作物で、地域景観に対し違和感のあるものとなっています。さらに、通常は出入口が閉じられ、立ち入り出来ないものとなっています。

しかし、中土佐町第1号津波避難タワー（津波避難タワーという）は、開放的なものとなっており、周辺住民に日常的な散歩やウォーキング路等として使われており、かつ、町民に愛されるものとなっています。また、この津波避難タワーは、太平洋を望む展望台、休憩所としても利用され、事実、調査時には、遠足で来た女子高生の3人組がタワー最上階のベンチで昼食、談笑が見受けられました。

さらに、津波避難タワーは、重要文化的景観地区に指定された区域に立地しているため、一般に味気ない津波避難タワーに対し、デザイン的な配慮もなされています。

また、津波避難タワーの構造は、コンクリート充填鋼管柱による杭柱一体化工法をとり、津波による引き抜きに対して十分な抵抗力を確保し、円柱形状の柱は、漂流物の引っかかりを防止する防舷作用効果を高める構造となっています。

以上により、津波避難タワーは、観光客の避難を視野に入れ、普段は展望台としての利用を期待するなど非常時だけでなく、普段から使われる施設となっており、従来の工作物としての津波避難タワーから脱却し、日常利用をめざした新しい津波避難タワーの提案を行っています。

（四国地区審査委員長 大谷英二）

《公共建築賞・優秀賞 受賞作品》

梶原町立図書館（雲の上の図書館）／梶原町複合福祉施設（YURURI ゆすはら） （文化施設部門）



外 観



内 観

《施設概要》

- 所在地：高知県高岡郡梶原町梶原 1212-2
- 建物用途：図書館／福祉施設
- 敷地面積：3,087 m²／2,566 m²
- 構造形式：鉄骨造一部木造、地上2階、地下1階／鉄骨造、地上3階、地下1階、塔屋1階
- 延べ面積：1,931 m²／2,285 m²
- 竣工年月：平成30年2月
- 事業者：梶原町
- 設計者：株式会社 隈研吾建築都市設計事務所
- 施工者：戸田・四万川特定建設工事共同企業体

梶原町立図書館（雲の上の図書館）／梶原町複合福祉施設（YURURI ゆすはら）は、梶原町の役場や高校のある中心部の一角にあります。

今回、複合福祉施設は、コロナの影響で現地調査ができませんでしたので、ここでは、梶原町立図書館（雲の上の図書館）（以下、雲の上の図書館という）について記載します。

図書館建築の蓄積は、膨大であり、これまでに数多く図書館が建設され、幾多の名建築も生まれています。そうした中で、この、雲の上の図書館は、その一つに挙げて良いのではないかと思います。

まずは配置計画です。この雲の上の図書館と複合福祉施設は、近くにある梶原こども園と体育館を、広場で連結し、一体的なものとしています。また、図書館の内部空間と、外部空間としての広場に連続性を持たせています。駐車場の位置も絶妙です。また、かつての小学校正門からの雲の上の図書館へのアプローチも心憎さを感じます。

雲の上の図書館の内部空間は、鉄骨と圧倒的な木組みの構造がうまく整合しており、かつ、開架図書の展開が巧みです。図書の閲覧動線は、階段を上手く使いながら、また、たまり場空間を作りながら、テーマごとの分類（地域の課題や読者の興味を想定した独自分類）を採用し、4つの小部屋には、梶原町の課題や未来を考察するテーマのコーナーを設けているなど、図書空間として巧みな展開をもたらしています。また、木組みと鉄骨を巧みに組み合わせるハイブリッド工法で、森の中のような空間が表現されています。

雲の上の図書館は、地元町民は元より、町外からの来館者も多く、梶原町の知名度のアップ、魅力の向上に資する施設となっています。したがって、質の高い図書館建築として、また、一般的な図書館とは異なる取組を行っている図書館となっています。

（四国地区審査委員長 大谷英二）

《地域特別賞 受賞作品》

豊永郷民俗資料館（文化施設部門）



外 観

内 観

《施設概要》

- 所在地： 高知県長岡郡大豊町栗生 158
- 建物用途： 博物館
- 敷地面積： 4,240 m²
- 構造形式： 木造、地上 2 階
- 延べ面積： 482 m²
- 竣工年月： 平成 27 年 7 月
- 事業者： 特定非営利活動法人 豊永郷民俗資料保存会
- 設計者： 株式会社 上田建築事務所
- 施工者： 有限会社 勇工務店

民俗資料館は、全国の市町村に数多く存在します。しかし、それは使われなくなった公共施設に民具等が粗雑に放置されているものも多く見受けられます。

しかし、豊永郷民俗資料館は、地元住民を中心に町の補助を受けて建設されたものであり、地元の寺の住職が収集した膨大な民俗資料を保存（収蔵）、及び、展示を行っている施設です。

そして、決して広くない内部空間に、収蔵（保存）と展示をうまく両立させています。それは、大豊町の自然、生活文化と歴史の生き証人であり、地域文化、地域アイデンティティの拠り所ともなっております。

また、豊永郷民俗資料館は、開館当初から地元の小・中学生の学習の場、林業関係者、教育関係者等の研修の場ともなっており、住職が学芸員の資格を取り、いろいろな試みを実施し、文化の継承に貢献しています。

建築的視点からは、高知の伝統工法を巧みに用い、かつ、モダニズム化しており、柱・梁を強調し、迫力のある空間を演出しています。また、動線計画も、展示と建築を一体化させた設計となっており、さらに、高知の大工の技を最大限に生かしたものとなっています。

豊永郷民俗資料館は、何もしないと失われていく地域の民俗資料を民間組織が意欲的に収集し、収蔵・展示を行っている全国的にも数少ない施設です。その貢献度・文化性、及び、建築物の地域性・芸術性等から奨励すべき民俗資料館となっています。

（四国地区審査委員長 大谷英二）

公共建築賞について

1. 公共建築賞について

公共建築賞は、優れた公共建築を表彰することにより、公共建築の総合的な水準の向上に寄与することを目的として、(一社)公共建築協会が国土交通省・全国知事会・全国市長会・全国町村会の後援を得て 1988 (昭和 63) 年から 1 年おきに実施しています。

2. 第 18 回公共建築賞の対象建築物について

国の機関、地方公共団体又は政府関係機関若しくはこれに準ずる機関が施工した建築物並びにその他の公共性の高い建築物で、2014 (平成 26) 年 4 月から 2019 (平成 31) 年 3 月の間に竣工した建築物を対象にしています。

3. 「公共建築賞・優秀賞」について

全国から応募のあった 122 点の公共建築について、全国の 9 つの地区審査委員会 (第 1 次審査) による審査後、本部審査委員会 (第 2 次審査) による審査の結果、優れた建築物として、全国で 33 点の建築物が「公共建築賞・優秀賞」に決定し、四国地区からは 3 点が選ばれました。

今後、本部審査委員会による審査が継続され、「公共建築賞・優秀賞」のなかから、「公共建築賞」として行政施設部門、文化施設部門、生活施設部門ごとに総合的に最も優れた建築物を各 1 点、「公共建築賞・特別賞」として特に優れた特徴を持つ建築物の 2 点内外が決定されます。

4. 「地域特別賞」について

各地区において優れた特徴を持つ建築物、奨励すべき建築物として、全国で 9 点の建築物が「地域特別賞」に決定し、四国地区からは 1 点が選ばれました。

5. 審査委員

四国地区審査委員会 (第 1 次審査)

第 18 回公共建築賞四国地区審査委員会 (敬称略 委員名は 50 音順)

委員長	大谷 英二	高知工科大学名誉教授
委員	赤堀 良信	徳島県県土整備部次長
	伊藤 誠恭	国土交通省四国地方整備局営繕部長
	釜床 美也子	香川大学創造工学部講師
	武智 和臣	アトリエ A&A 代表取締役

本部審査委員会 (第 2 次審査)

第 18 回公共建築賞審査委員会 (敬称略 委員名は 50 音順)

委員長	和田 章	東京工業大学名誉教授
委員	植木 暁司	国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長
	見城 美枝子	青森大学名誉教授・エッセイスト
	白石 真澄	関西大学教授
	妹島 和世	建築家
	春田 浩司	一般社団法人公共建築協会会長
	涌井 史郎	東京都市大学特別教授
	渡辺 正信	東京都財務局建築保全部長

6. 四国地区の表彰式について

第 18 回公共建築賞の「公共建築賞・優秀賞」及び「地域特別賞」が決定したことを受けて、四国地区における表彰式を、次のとおり開催いたします。

日 時	令和 5 年 6 月 1 日 (木)	11 時 30 分～
場 所	ホテルパールガーデン	香川県高松市福岡町 2-2-1